

V. 特記事項

1. スピリチュアルケアに心を向けるための教育体制

様々な不安や病を抱えた患者様に対して、ホリスティック・ナーシングケアの精神に基づくケアの実践に必要な基本概念を理解してもらうための体制整備を本学では心がけている。教育体制として、「生の充実」の実現のための重要な側面でもあるスピリチュアルペインに対して、概念だけでなく具体的なケアの立案までを通してホリスティック・ナーシングケアを学生が身に付けられるような顕在的・潜在的カリキュラムを構築し、学生に提供している。

具体的には、看護の発展科目の必修科目として3年次に〈スピリチュアルケア〉が設定されている。この科目が必修単独科目として配置されている看護系大学はほとんどないことから本学を特色づける科目の1つと言える。実習においては〈老年看護学実習〉の中で緩和ケア病棟実習があり、その際に設置母体であるセブンスデー・アドベンチスト教会の牧師による指導を受けるなど、対象者の全人的痛みや家族の苦悩についての学びからスピリチュアルケアについて心を向ける教育機会を提供している。寮における礼拝や全学でのバイブルウイークなど宗教的行事を経験することを素地としながら、寮生活での相互交流から他者との関係性を築くことで、スピリチュアルケアを理念的に学ぶのではなく、経験的に学ぶことができる教育体制があることが本学の特色の一つとなっている。

2. 2つのキャンパスでの効果的な学修—豊かな心を育む大多喜キャンパスと確かな知識・技術を磨く東京校舎—

豊かな自然に囲まれた大多喜キャンパスは落ち着いた学びに最適の環境が整っており、入学から2年生の前期までは大多喜キャンパスで主に基礎教育科目、看護学の基本的な知識や技術などを学ぶことになっている。また2年生の後期以降は、都内でも最初に緩和ケア病棟を開設している東京衛生アドベンチスト病院の隣の校舎で、臨床看護師と協働することにより、専門的な学びを深める教育を提供している。

大多喜キャンパスでは、自然の中で豊かな心を育む素地と看護を学ぶ上で必要となる基礎知識を身につけるとともに、併設されている三育学院カレッジ神学科の学生との交流によってスピリチュアルケアの基盤となるキリスト教の精神を学ぶことができる。東京校舎では隣にある系列機関の病院との連携により、看護の専門知識・技術および実践力を養うことができる教育体制をとっており、2つのキャンパスの特徴を活かした効果的な学修提供のための教育環境を整えている。

またホリスティック・ナーシングケアの精神は実体験から学べることが多くあるため、大多喜キャンパス・東京校舎・実習病院での学びだけでなく、国内外を問わず地域・社会・大学と連携した学修である「あなたならではの体験」を積極的に推奨している。そのため看護の発展科目として〈国際看護実習〉が3年次に設定されており、カリキュラム外では高齢者施設・障害者施設・地域保健活動などでボランティア活動ができる多様な環境を設定しており、ホリスティック・ナーシングケアを学ぶ機会を提供している。